

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校の教育指針である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

- 1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
- 2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
- 3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

- 1. 「確かな学力」の育成と授業改善（「 」内は学校教育自己診断におけるアンケート設問事項。以下全て同様。）
 - (1) 新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等を見据えて、「確かな学力」の育成とのための授業改善を進める。
 - ア 校内外における研修等により持続的な授業改善を推進する。
 - ※「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに85%以上にする（R4 82%、R5 85%、R6 78%）。
 - ※ 生徒の授業アンケート結果で3.40以上を維持する（R4 1回め①3.45、2回め②3.47 R5 ①3.45、②3.51 R6 ①3.41、②3.46）
 - イ 『主体的・対話的で深い学び』の実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。
 - ※令和9年度までに85%以上の教員が定常的にICTを活用した授業を実施する（R4 91%、R5 81%、R6 78%）
 - ※令和9年度までに85%以上の生徒がICTを活用した授業が多いことを実感できるようにする（R4 88%、R5 89%、R6 82%）
 - ※令和9年度までに70%以上の生徒が1人1台端末を効果的に活用している授業が多いことを実感できるようにする（R4 63%、R5 73%、R6 67%）
 - ウ 入学時の学力を卒業まで維持・発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。
 - ※「授業の予習、復習は『できている』『まずできている』を令和9年度までに55%以上にする（R4 52%、R5 51%、R6 49%）
 - ※「授業の予習、復習は『できていない』を令和9年度までに5%以下にする（R4 9%、R5 9%、R6 9%）
 - エ 新学習指導要領における新カリキュラムと観点別学習評価が一巡したことを踏まえ、全学年でより安定した実施ができるようにする。
 - 2. ICTを活用した授業やオンライン授業、オンデマンド授業の充実、GIGAスクール構想への対応
 - (1) ICT機能を活用して、学校休業時や、感染症の罹患者等への学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。
 - ア 校内に設置した「ICT、GIGAスクール対応推進委員会」を中心に学校休業時や、感染症の罹患者等の学習補完を充実する。
 - イ GIGAスクール構想における1人1台端末の活用をすすめ、授業や学校行事等、教育活動全般においてICT活用推進を図る。
 - 3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望進路の実現
 - (1) 様々な偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。
 - ア 様々な偏見を許さないとともに、生徒、教職員に対して、多様性を認めあい共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。
 - ※「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに85%以上にする（R4 88%、R5 89%、R6 82%）
 - ※「牧野高校の人権教育は、適切に行われている」の教員の肯定的回答を令和9年度までに85%以上にする（R4 84%、R5 80%、R6 74%）。
 - ※「牧野高校は、人権教育や人権問題に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を令和9年度まで85%以上を維持する（R4 89%、R5 88%、R6 86%）。
 - (2) 生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割、使命を意識させ、希望の進路実現を図る。
 - ア 非認知能力を育む部活動の活発さを維持するとともに、学校行事、生徒会行事については、生徒・教職員の負担減につながるよう見直しをしていく。
 - ※体育祭や文化祭、修学旅行等について、生徒・教職員の負担減につながるよう見直しや修正、変更を検討する。
 - ※「部活動は活発である」への生徒の「よくあてはまる」の回答を令和9年度までに70%以上にする（R4 68%、R5 65%、R6 66%）。
 - ※「部活動と学習の両立ができている」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに80%以上にする（R4 74%、R5 74%、R6 69%）。
 - イ 生徒に、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、わかりやすく意識させる機会を持つ。
 - ※進路講演会やイベントを行うとともに、外部講師による講演等の計画、実施を模索する。
 - ※「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに80%以上にする（R4 78%、R5 80%、R6 70%）。
 - ※「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに85%以上にする（R4 88%、R5 88%、R6 82%）。
 - ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。
 - ※学力の3要素、とりわけ思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に取り組む態度を養うために、「総合的な探究の時間」を充実させる。
 - エ 生徒が、入学から卒業まで全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。
 - ※進路実現のために、高校3年間で考える力を養い大学入学共通テスト形式にも慣れるとともに、定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を図る。
 - ※令和9年度までに、大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上（R4 63%、R5 68%、R6 59%）にするとともに、そのうち6教科型の出願者を35%以上（R4 25%、R5 31%、R6 19%）にする。
 - ※令和9年度までに、国公立大学の現役受験者を卒業見込者の30%以上（R4 10%、R5 26%、R6 17%）にして、現役合格者を卒業見込者の10%以上（R4 6%、R5 12%、R6 4%）にする。
 - ※令和9年度までに国公立大学と同志社大学の合計の現役進学者を卒業者数の15%以上にする（R4 14%、R5 15%、R6 10%）。
 - ※令和9年度まで国公立大学と生徒の人気の高い関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者合計が卒業者数の60%以上を維持する（R4 65%（204/313名）、R5 66%（180名/271名）、R6 56%（157名/276名））。
 - 4. 教職員研修での教職員の資質向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - (1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分応えられる資質を養成する。
 - ア 教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。
 - ※「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答を令和9年度までに85%にする（R4 87%、R5 80%、R6 76%）。
 - ※「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに80%以上にする（R4 82%、R5 80%、R6 74%）。
 - (2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒結果より】 全般的に低下傾向にある。前年度の結果と比較して、5%以上変化したものについては、次に示す通りである。全体的に低下している原因については、3年生の低下が影響をしている。1・2年生については、前年度と比較してもさほど大きな変化は見られないが、反面、3年生の結果は、今年度の調査では大きな低下傾向があり、その結果が全体に影響を与えていると考えられる。特に3年生の結果については、卒業年度になり、3年間をトータルで考えての結果であると考えられ、課題意識を持って対処していきたい。 ●楽しい（74.9%▲6.7） 令和4年度から緩やかに下降しており、80%を切った状況になっている。授業充実や行事内容の見直しを行う必要があり、特に生徒が主体的に取り組めるものとし、生徒の主体性が更に活かせるものへとしていくことで、向上を図る必要がある。 ●授業はわかりやすい（71.5%▲6.8） ●予習・復習ができている（32.4%▲16.5） ●授業で理解できない場合の指導が適切（63.4%▲7） 授業準備に対する生徒の取組が下降傾向にあることと相関し、授業理解が進んでいないことがわかる。授業が分かりやすいとする割合も下降していることから、授業充実に向け相互授業見学等を行うことで、更なる充実を図る必要がある。 ●進路資料室の資料は利用しやすい（52.4%▲8.3） 求めている生徒の資料と準備している資料のニーズがあっていないことも考えられる。生徒のニーズは何であるかを調査することで、生徒が足を運びやすく、有効活用できるようにする必要がある。半面、進路関係の行事（説明会等）については、ほぼ横ばいになっている。将来の生き方について考える機会があるという回答では、80%を超える肯定的回答があることから、進路指導そのものは、概ね良好に推移していると考えられる。 ●教室以外の施設・設備は良好である（66.2%▲5.7） 施設・設備に関しては創立50年を経て老朽化等が進んでいる影響と思われるが、今後生徒の安全確保の観点から、優先順位をつけながら修繕等を行っていく。 ●健康管理の意識を高める指導をしている（71.3%△5） 各種健康診断や、健康に関する講演会（性に関する講演、がん教育等）等の取組結果が反映されている。今後も、継続的に講演や健康に関する啓発を行っていく。 ●1人1台端末を効果的に活用している（77.9%△10.4） 授業における端末利用に関しては、今後授業充実委員会等で議論しながら、効果的な活用方法について研修等を行い、更に活用を進めたい。なお、総合的な探究の時間では、常時、端末を利用した取組みがあり、効果的に活用できている。 大きな数値変化はないが、生活指導における納得感については、肯定的回答が71.1%、いじめ等への対応も77.9%が肯定的回答となっている。悩みを相談できる人や場所についても、73.8%が肯定的回答である。一方で、肯定的回答が70%台であることから、更に向上するよう真摯に対応していく。 【保護者結果より】 前年度の結果と比較して、5%以上変化したものについては、次に示す通りである。全般的に微減、もしくは微増の状況で、例年と比べても大きな変動は見受けられない。その中で、生徒指導に関して肯定的回答が上昇したのは、カウンセリングマインドによる生徒に寄り添った対応が認められているものと判断できる。 ●基本的生活習慣の指導は適切（91.7%△8） ●生徒の健康の維持管理に努めている（75.4%▲5.4） 生徒の健康維持に関しては、生徒及び教職員の肯定的回答は向上したのに比べ、保護者の肯定的回答が減少している。数値的には、生徒と保護者の数値は、ほぼ同程度であることから、家庭における認識の差は大きくない。今後も、学校からの情報発信を行うことで、健康管理に努めていく。 学校行事に関しては、例年と大きな差はなく、保護者から見て、学校へ行くのが楽しいと見える割合は85%超、体育祭や文化祭の満足度は90%超であることから、ある程度満足いく行事と受け止められている。半面、生徒の傾向は減少傾向であることから、生徒自らが取り組める内容とすることが鍵を握っていると判断できる。 その他、学校からの情報発信や連携、施設の観点については、多少減少傾向であるが、大きな数値変動はなく、75～85%程度の高水準である。今後も丁寧な情報発信をして、取組の理解を図りたい。 【教職員結果より】 ほぼ全ての項目について、全般的に向上傾向にある。前年度の結果と比較して、5%以上変化したものについては、次に示す通りである。ただ、回答数が生徒や保護者に比べて少ないため、少数の変化でも結果に大きな差が生じてくる。そのため、今後も傾向については、注視していく必要がある。 ●教室等の学習環境は良好（50%▲7.4）	【（第1回）令和7年6月16日】 ○令和6年度学校経営計画及び学校評価について、最新版にアップデートされている部分の説明をいただきたい。 ⇒昨年度第3回の本協議会で示した資料に、未確定であった大学入試の結果等を新たに記載している。 ○令和7年度学校経営計画について、最新版にアップデートされている部分の説明をいただきたい。 ⇒昨年度第3回の本協議会で示した資料に、未確定であった大学入試の結果等を新たに記載している。 ○令和10年度入学者選抜の新制度についてご説明いただきたい。 ⇒現行の制度と新制度の比較、新しく策定されるアドミッションポリシー、検討中の特色枠について説明します。但し、今後の府教育庁からの指示によっては変更する場合があることをご了承ください。 ○ご説明いただいたアドミッションポリシー、特色枠の内容は、中学生が中学校で3年間を通して頑張る気持ちになれるような内容になっており、この方向で進めてほしい。 ○創立50周年事業についてご説明いただきたい。 ⇒創立50周年記念事業の記念式典、記念品等について説明します。また、記念式典にご臨席いただける委員の皆様へ御礼申し上げます。 ○国公立大学の受験者数、合格者数を増やす取組みはどのものがあるか教えてください。 ⇒まずは、大学入学共通テストの受験者数を増やすことが、必要だと考えています。1・2年生のころから、模試やプレテストの受験を推進して、意識づけをしていきたいと考えています。また、受験は集団戦であると考えています。みんなで国公立大学をめざそうというような意識を涵養していく必要があります。さらに、国公立大学の入試も多様化しております。一般入試の前に実施される総合型選抜への出願を勧奨していきたいと考えております。 ○牧野高校の校風は、勉強だけでなく、学校行事等にも積極的に取り組む生徒がいることだと思います。この校風を維持していったほしいと思います。 ○近隣の中学生と話していると、牧野高校を志望する子もおります。地域から志望される学校を維持できるように頑張ってください。 ○先日、体育祭を見学しましたが、生徒の皆さんが主体的に運営する素晴らしいものでした。今後も学力だけでなく、生徒の自尊心を高める活動を行ってほしい。 ○生徒が何事にも主体的に全力で取り組んでいる学校だと思います。アドミッションポリシーにも明確に示されているので、この文化と伝統を維持してほしい。 【（第2回）令和7年11月17日】 ○中高連携をより一層推進されるとのこと、6月に中学校の教員が高校の授業を見学させていただいたように、高校の先生方も中学校の授業を見学いただき、双方の交流を深めてほしい。 ○令和10年度入試の学校特色枠の一つで、学力検査の英語の点数を2倍にしているのは、英語の学力を重視しているためか。 ⇒国際交流を積極的に推進するためにも、生徒にも英語力が必要であるため、この基準を設けることにしました。 ○令和8年度学校経営計画においてICT機器を充実させ、授業改善を行っていくという項目から、ICT機器の充実が削除されていますが、この決断に至った経緯を教えてください。 ⇒ICT機器の充実には限界があり、ICT機器を必要ところで充実させ、授業をしっかり行うことが、生徒へ良い影響を与えることができると考えています。そのうえで、今あるICT機器をどのように活用するかを考えることが重要であると考え、項目からは外すことにしました。 ○職員の超過勤務について、部活動に熱心な教員が月80時間の超過勤務になると思うが、対策について教えていただきたい。 ⇒土日の部活動については、活動する時間だけ学校で勤務いただくようにする、毎月、実際の超過時間から推計される年間の超過時間を示す個票を配付するなどの対策をしております。 ○通信制、オンライン授業で、生徒へ提供する授業はライブ配信やオンデマンド配信等があると思うが、どのような方法で対応されているか、ご説明いただきたい。 ⇒オンライン授業は、ライブ配信です。学校の時間割に合わせて配信します。最大36単位まで修得することができます。また、通信制は、スクーリングが必要ですが、対象となる生徒の状況によって、動画教材やオンデマンド配信を活用することもできます。 ○部活動で、生徒たちが自主練習などを行う時間の安全対策はどうなっていますか。 ⇒土日の活動については、グラウンド、体育館とも割り当て時間が決まっているので、練習時間外に活動することはありません。各顧問の先生には、始業前などに生徒たちが練習する場合は、必ず校内に滞在していただき、怪我などの緊急時には対応できる体制を整えておくようにしています。 ○文部科学省が理系学生を増やすプランを提言し始めていますが、牧野高校での理系学部・学科への進学率はどれくらいですか。 ⇒7クラス中、2クラスが理系志望の生徒になります。 ○自転車通勤していると、電動アシスト自転車に大きな荷物を載せて立ちこぎして転倒してしまった生徒を見たことがある。重心を高くせず安全に乗るように指導してほしい。 ○自転車の青切符制度も導入されるので、生徒たちに丁寧に指導してほしい。 ○生徒が自主的に行動できるようになる学校だと思っています。牧野高校の教育を継続してほしい。

府立牧野高等学校

●教室以外の施設・設備は良好（39.1%▲12） 施設面については、創立 50 年を迎え老朽化が進み、課題は多い。また、校内における費用では、生徒安全を優先して対処するため、多くの箇所の修繕等に至らない現状が、この結果となっている。 ●楽しんでいる（89.1%△5.8） 生徒の回答と教職員の回答では、傾向が逆になっている。生徒のニーズを把握することで、方向性を一致していく必要がある。そのために、入学時のニーズ調査及び卒業時の満足度調査を行っていく必要がある。 ●個々の適性に応じたきめ細やかな進路指導を行っている（84.8%△15.2） ●10 年・20 年先を見据えた進路指導を行っている（65.2%△10.9） 生徒回答と比べても将来を考える機会を意識した取組みとなっている。今後、更に変化の激しい中でも将来を考えられるように取り組んでいく。 ●基本的生活習慣に関する指導は適切（84.8%△21） ●問題行動に対して組織的に対応する体制ができている（73.9%△10） ●カウンセリングマインドによる生徒指導を行っている（89.1%△13） 生活指導については、生徒に寄り添って話を聴くことで、大きな問題なく学校として対応できている。生徒回答も 70%台であることから、方針を共有・理解しながら取り組んでいる。 ●生徒会活動を通じて主体的に活動できる支援をしている（82.6%△13） ●体育祭の内容は適切（93.5%△10.5） ●文化祭の内容は適切（89.1%△10.4） ●生徒は学校行事に積極的に参加（93.5%△12.2） 全般的に 80%～90%と肯定的回答が高くなっている。生徒回答については、体育祭・文化祭など肯定的回答が減少傾向にある。今後は、更に生徒が主体的に参画できるような方策を検討しながら、生徒の肯定的回答の向上を図る。 ●部活動と学習を両立している（82.6%△10.9） 部活動については、加入者数が年々減少傾向にある。中学校の部活動の地域移行を受けてのものであるが、校内でも影響がある。また、大会の実施時期にもよるが、年々行事と部活動・学習の両立が難しくなっていることが、生徒回答の予習・復習をしている割合が減少していることから分かる。 ●教育活動全般について生徒・保護者の期待に応えている（91.3%△16.3） ●到達度の低い生徒に対する指導ができている（71.7%△8.7） 生徒回答と教職員回答では受け止めが異なり、相関がない。生徒の中には、質問そのものを教職員にしないケースもあることから、授業後の指導方法に関して、一工夫する必要がある。 ●人権教育は適切に行われている（91.3%△17.4） ●教育相談体制が整備されている（84.8%△15.2） ●いじめ体制が整い迅速に対応できている（84.8%△8.7） 人権教育については、各学年でテーマを設定して行っていることが、校内でも共有され数値が向上している。生徒回答も 80%台であり、継続して取り組んでいきたい。 ●生徒の健康管理に努めている（87%△6.1） 生徒の肯定的回答が上昇していのもと同様、教職員についても向上している。就学支援委員会等を通して、情報共有を行いながら取り組んでいる効果ともいえる。 ●校内研修は内容頻度とも適切（71.7%△13） 人権研修も含め、生徒と同じ意識を持って対応できるよう、今後も定期的に研修を行う。また、本自己診断の結果を踏まえて校内研修を行ったことも、数値向上に寄与した。今後も充実させていく。 ●教育活動について日常的に話し合っている（73.9%△6.5） ●教育活動全般の評価を行い次年度の計画にいかしている（82.6%△17.4） 教職員間の忌憚ない意見交換が新たな発想を生み、意識共有につながっていく。数値的には大きな向上が見られたが、今後も更に日常的に課題共有できるようにしていく必要がある。 ●公文書管理は個人情報保護の観点からも適切（87%△8.3） ●P T A 活動は活発（78.3%△12.3） 各種学校行事への参画など、目に見える形での取組が功を奏している。冬場のイルミネーション等の対応も、その一つといえる。 ●教育活動の情報について生徒・地域・保護者へ周知（80.4%△10.5） 公式インスタグラムの開始なども向上した一つの要因という。また、中学校との間での相互授業公開なども要因として考えられる。今後も、地域への情報発信に努めていく。	○生徒がいきいきと活動している。様々な取り組みの中で生徒たちの自立心や自尊感情を育んでいると思います。授業見学でも生徒と先生の間に暖かい関係性があるように感じた。 ○カウンセリングマインドを持って生徒を教育していることがよくわかった。 ○授業見学中、1・2 年生は主体的な学びを念頭において授業されていましたが、3 年生は、受験前であるためか詰め込みで授業していることが多いようでした。今後、受験の形も変化していく中で、3 年生でも主体的な学びをより涵養できる授業が展開されるようになってほしい。 ○授業見学をして、生徒たちに様々な問いかけを行っている授業は、活発な活動が行われているようでした。授業アンケートの結果では、数学・理科の結果が比較的悪いようだが、この結果が良くなっていけば、もっと良い学校になっていくと思う。 ○50 周年記念式典では、1 年生が中心になって運営したように、生徒を主語にして、各種活動を実施しているのが、牧野高校の良いところだと思います。授業でも、生徒が主体的に学ぶ活動をより一層、推進してほしい。 【(第3回) 令和8年1月23 日】 ＜学校教育自己診断について＞ ○牧野高校の良さは、楽しくて活発な学校だと考えている。生徒の結果で、「牧野高校は楽しい」の肯定的回答の割合は、令和3 年の値が顕著に高く、それ以降下がってきている。この原因について精査する必要がある。また、令和3 年度が高い理由は何か。 ⇒新型コロナウイルスが流行した時期で、授業や学校行事は、様々な工夫を凝らしていたため、高くなっている可能性がある。また、「牧野高校の授業はわかりやすい」の項目も下がってきている。学校生活の中心は授業であるため、「授業がわからない」ことで、学校の楽しさも低下しているとも考えられます。 ○「授業が分かりやすい」と「授業の予習、復習（ができている）」という学習習慣を、どのように連動させていくかを考えていくことが必要である。 ○私学の無償化の影響は大きい。私学は、無償化する前から、様々な工夫や、個性的な取組みをされてきている。今は、SNS 等で簡単に私学の様子がわかるので、公立と私学を比べている影響もある。 ○生徒の学力については、全体的にみてどのような状況か。 ⇒数学を例にすると、年々、計算する力が落ちてきていると感じる。そのため、考える時間も少なくなっている。 ○中学生での分析結果だが、ICT 活用については、成績不振であるほど利用時間が長く、上手く活用できていない。高校生では ICT 活用の質を高めて、思考を深めていくためのツールとしていく活用する方法を検討していく必要がある。 ＜令和8 年度学校経営計画＞ ○6 月と 11 月に、牧野高校の授業見学に中学校教員が 15 名以上参加した。また、牧野高校からも中学校の授業見学に来ていただいた。中学校教員としては、授業の形態等の違いから新しい気づきを得ることもあった。また、進学した生徒たちがどのような環境で活動しているのかを知ることができた。高校の先生も入学してくる生徒の様子を知る機会になる。また、今後探究活動で連携を深めて、中学生と高校生の交流をすることもできるのではないか。 ○教職員の負担が心配。勤務時間の短縮の方策などは、どのような状況か。 ⇒土日の部活動などは、活動時間に合わせて勤務してもらうなど、できるだけ勤務する時間を縮減するようにお願いしている。また、今年度は、職員会議を月 1 回開催とし、授業時間割内にもできるだけ会議を入れて実施している。 ＜授業アンケート結果について＞ ○学校教育自己診断や授業アンケート等、複数のアンケート結果をどのように分析していくかが重要である。 ○理数系科目に対する苦手意識がアンケート結果に顕著に出ているようである。 ＜その他＞ ○私学の無償化や少子化の影響を受け、その影響が出ている。時代の流れではあるが、牧野高校は楽しいという核となる部分は、維持していったほしい。 ○部活動と学習の両立は良い事だが、一方でどちらか片方だけが楽しいという生徒さんがいることも考えて欲しい。 ○中学校でも先生方の業務改善が大きな問題となっている。特に土日に部活動があると超過勤務が一定時間を超えてしまう。部活動のない小学校では、中学校に比べて超過勤務は少、やや少ない傾向にある。超過勤務については、会議の精選など色々な対策をしているが、即効性のある取り組みはない。反面、先生方のモチベーションやウェルビーイングの視点で仕事に対するやりがいをもってもらえるような声掛けなどを行うことも重要である。高校でも中学と同じような課題があるのではないかと。 ○保護者として、普段見えない学校の内部に関わったことで、より牧野高校が充実し、子どもたちも、やっぱり牧野高校に来てよかったなという 3 年間であったと思っている。一番、うれしかったのは、教職員のアンケート結果で、ほぼ全てで上向きになっている。学校や生徒に対しての意識が高く、満足しているのが非常にうれしかった。 ○学校教育自己診断で生徒・保護者、教職員の結果に乖離が出てしまっている可能性がある。その因果関係を突き詰めるのは大変だが、そこを探っていくことを継続してやっていると、色々な要因が見えてくるのではないかと。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 6 年度値〕	自己評価
1. 「確かな学力」の育成と授業改善	（１）「確かな学力」の育成と授業改善 ア 校内外における研修等による持続的な授業改善の推進 イ ＩＣＴを活用した授業推進	（１）新学習指導要領が一巡したことや、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。 ア 校内外における研修等で持続的な授業改善を推進する。また先生方による授業観察期間を設け、授業改善に資するようにする。 イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ＩＣＴ機器やネットワーク環境を一層充実させ、ＩＣＴと１人１台端末を活用した授業等の実施機会を拡大、推進する。	ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を 80％以上にする【78％】。 ・生徒の授業アンケート結果で 3.40 以上を維持する【①3.41、②3.46】。 イ・ＩＣＴと１人１台端末を活用する授業を行う教員を 80％以上にする【78％】。	（１） ア 6/25 及び 11/17～21：近隣中学校に公開授業を案内し、校内では公開授業週間として実施した（◎）。【①全体平均 3.51②全体平均 3.52】 イ １人１台端末の有効活用は、クラスルームを活用した取組及び総合的な探究の時間を主として行っている。学校教育自己診断における教員の活用率は向上し、生徒の認識も向上している（○）。【80.4％】
	ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導 エ 生徒の進路希望が叶う新カリキュラムの定着	ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけと幅広く多くの教科を学習することの大切さを様々な機会を通して指導する。 エ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムと観点別学習評価が一巡したことを踏まえ、これらを全学年でより安定した実施ができるようにする。	ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』を 50％以上【49％】、『できていない』を 8％以下にする【9％】。	ウ 各教科の指導及びLHRや通信を用いて行っているが、生徒の意識については低下傾向であり、今後、更に啓発を行うとともに、１人１台端末を効果的に活用していきたい（△）。【できている・まずできている割合：32.4％、できていない割合 17％】 エ 昨年度末に完成年度を迎え、今年度は安定した運用をできている（○）。【指標なし】
	2. GIGAスクール活用授業の推進とICT活用授業の構想対応	（１）感染症罹患等の学習補完とGIGAスクール推進 ア 感染症罹患等の学習補完 イ GIGAスクール構想推進	（１）ア・ＩＣＴ機器やネットワークを活用した授業が多いと実感する生徒が 85％以上にする。【82％】 イ・「牧野高校は１人１台端末を効果的に活用している」の生徒の肯定的回答を 70％以上にする。【67％】	（１） ア オンライン及び通信制の手法を用いた単位修得に関する内規を整備、加えてオンライン授業を実施した。活用していると実感している生徒の割合は低下傾向であり、今後授業充実を更に図り端末利用を推進していく（△）。【76.7％】 イ 総合的な探究の時間では、総じて１人１台端末を活用して授業を実施している。他の教科は授業者により差がある状態ではあるが、生徒の肯定的意見は約 10%上昇した（◎）。【77.9％】
3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現	（１）多様性、共生の意識醸成 ア 様々な偏見を許さないとともに、生徒、教職員の人権意識醸成の機会を作っていく	（１）様々な偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。 ア 様々な偏見を許さず、多様性を認め合い共生するための人権教育、人権意識醸成の機会を生徒は各学年で年間 2 回以上、教職員も年間 2 回以上行うようにする。	（１）ア・「命の大切さ社会のルールについて、学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を 85％以上にする【82％】。 ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答を 80％以上にする【74％】。 ・人権教育を生徒は各学年で年 2 回、教職員も年 2 回行う【1 年 2 回、2 年 2 回、3 年 2 回、教職員 2 回】。	（１） ア 6/26（起立性調節障がいの理解）及び 11/2（同和問題）に関する職員人権研修を実施（2 回）。各学年では、1 年：6/12（いじめ問題）・11/13（LGBTQ）・2 月めぐみ実施（3 回）、2 年：11/27（フィールドワーク事前学習）・12/12（コリアタウンフィールドワーク）（2 回）、3 年 6/19（就職差別）・10/2（労働問題）・11/6（金銭トラブル）（3 回）で実施した。各学年ともに、課題を明確に行っているが、肯定的意見は 85%まで届いていない（○）。【80.5％】 また、教職員においては、人権教育が適切に行われているとする肯定的回答は 91.3%にのぼり、適切に行われていると判断されている（◎）。【91.3％】
	（２）生徒の高校生活の充実と希望進路の実現 ア 部活の活発さを維持するとともに生徒・教職員の負担減につながる行事等の見直し	（２）生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。 ア 非認知能力を育む部活動の活発さを維持するとともに、学校行事、生徒会行事については、生徒・教職員の負担減につながるよう検討していく。	（２）ア・体育祭、文化祭は生徒・教職員の負担減につながるよう実施のあり方を検討する。 団数や競技種目の実施方法が変更になった体育祭を滞りなく実施する。 ・「部活動は活発である」の生徒の「よくあてはまる」の回答を 65％以上とする【66％】。 ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答を 75％以上にする【69％】。	（２） ア 部活動については、各部活動とも活発に活動し、近畿大会等上位大会に出場した部活動もあった。学校行事等は、生徒の主体的な活動を基本として実施した（50 周年式典及び学校説明会等）。体育祭は団体種目変更の中でも滞りなく実施できた（○）。【部活動は活発である 65％】また、部活動との両立については、メリハリを持って活動できるよう、学校全体で組織的に行うことが課題である（△）。【66.8％】

府立牧野高等学校

	イ 進路について生徒に意識させ、考えさせる機会の充実 ウ 「総合的な探究の時間」の充実、学力の3要素の養成 エ 入学から卒業まで全教科を学び学力をつけて、生徒の希望を進路実現させるための進路指導体制の充実	イ 大学進学等のその先 20 年後を見越したキャリア形成や進路について、わかりやすく意識させる機会を持つ。 ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。 エ 入学から卒業までの全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて、進路指導部を中心に生徒の希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。	イ・進路に関する講演会等を各学年で年2回以上実施する【1年5回、2年3回、3年3回】。 ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を75%以上にする【70%】 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答を85%以上にする【82%】。 ウ「総合的な探究の時間」を多様な形で充実させる。 エ・全国比較ができる模試を少なくとも1・2年は年2回、3年は年1回行い、学習の定着度や到達度を計るようにする。 ・大学入学共通テストの出願者を卒業見込者の70%以上【59%】、内6教科型の出願者を30%以上にする【19%】。 ・国公立大学の現役受験者を卒業見込者の20%以上【17%】、内現役合格者を卒業者数の5%以上【4%】とする。 ・国公立大学と同志社大学の現役進学者を卒業者数の15%以上【10%】にする。 ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者を卒業者数の60%以上【56%】にする。	イ 各学年では、1年：5/15(学力判定テスト分析会)・9/18(卒業生講話)・9/18(進路講話会)・10/23(模試分析会)・11/5(地方の国公立大学)・1/15(分野別ガイダンス)・3/23(模試分析会)、2年：5/15(学力判定テスト分析会)・5/29(進路講演会)・10/30(模試分析会)・11/13(大学別ガイダンス)・3/23(模試分析会)、3年：4/17(進路HR)・6/12(模試分析会)・7/14(大学別説明会)と、年間予定通り実施できた。また、説明会等における生徒の評価は昨年度よりも上昇しているものの、目標には達していない(○)。【71.1%】将来について考える機会があるとする割合も高水準で維持できている(○)。今後、更に内容を精査していく。【81.4%】 ウ 1年生はビブリオバトル並びに枚方市の課題について、2年生は枚方市の企業と連携し枚方市魅力化について、また個人による探究課題設定と課題解決に向けた施策をゼミ形式で実施し、道筋をつけた。3年は個々により課題設定を行い、進路探究を行った(△)。【今後、更に内容を精査し、系統立てた実施をするまでには至らなかった】 エ 1・2年は8月及び1月に校内模試を2回、3年は4月に1回実施した。なお、校内模試後には、HRを活用し各学年で分析会を実施し、受験後の対応について共有を図った。あわせて、教員間でも情報を共有し、生徒の学習到達度を把握できるようにした。他に、外部模試を新たに導入し、校内受験を実施した(○)。【大学入学共通テスト受験者73.3%】このうち国公立大学受験を希望する6教科型の出願者も増加には至っていない。特に大学入学共通テストの出願が、オンライン出願になったことから、把握に苦慮し支援しきれなかった(△)。【15.8%】
4. 教職員研修での教職員の資質向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減	(1) 教職員の資質向上 ア 相談能力養成のための教職員研修の充実 (2)「働き方改革」の推進による教職員長時間勤務の縮減 ア「働き方改革」や健康管理の観点から、教職員の長時間勤務を縮減する。	(1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。 ア 教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。 (2)「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の削減 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から校内行事や分掌業務、会議時間、部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・職員会議のデータベース化、ペーパーレス化を他の会議や業務にもさらに拡大し、会議時間縮減や、部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、ICT活用による教材の共有化・効率化等で超過勤務削減を進める。 ・校内行事を見直し、縮小、廃止等も検討する。 ・新たな実効性ある働き方改革の施策を検討、実施することで、長時間勤務縮減を図る。	(1) 教職員研修の充実 ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答を80%以上にする【76%】。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」への生徒の肯定的回答を80%以上にする【74%】。 (2)教職員の長時間勤務縮減 ア・会議・各種業務のデータベース化、ペーパーレス化徹底で会議時間を縮減するとともに、部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、また校内行事を見直して、「働き方改革」を具体的に進め、教職員一人あたりの超過勤務時間数を前年度より3%削減する【R6：40時間34分】	(1) ア 教職員研修は、起立性調節障がいについて行い、理解を深めた。他の研修については、設定することは叶わなかった。なお、生徒指導においては、生徒の意見を受け入れながら行い、カウンセリングマインドを取り入れた手法については浸透しつつある(◎)。【89.1%】本校では活き活きと学校生活を送っている生徒が多く、また話しやすい教員等へ学習相談をしている現状がある。反面、悩み相談に関しては、周知はしているものの、浸透しきれず目標値には達しなかった。今後、周知方法等を工夫していく(○)。【73.8%】 (2) ア 会議等のペーパーレス化はほぼできている。また、一部の会議については、授業内に設定することで放課後の時間を確保でき、職員会議も月1回開催に変更し、時間確保を図った。(◎) 【37時間19分：8%削減】